



太田小学校発達障害・情緒障害通級指導教室「かがやき」

## 6月19日から「かがやき」保護者面談週間です

時折覗く日差しに初夏を感じる季節となりました。岩槻では田植えを終える季節ですが、私の郷里群馬では麦の収穫の時期です。この季節を「麦秋」ともいいます。

さて、6月19日からは学期末「かがやき」保護者面談を行います。指導時間の中で行いますので、お子さんの指導時間に合わせて必ずおいでください。週2回指導の方は、どちらを面談日にするかは「かがやきファイル」か電話でお知らせください。

### 一学期のグループ学習

太田小の授業参観・懇談会が実施される日に合わせグループ学習を行います。

7月4日(火) 14:45-16:15

4年生・6年生 グループ学習・保護者懇親会

7月6日(木) 14:35-16:05

3年生・5年生 グループ学習・保護者懇親会

を予定しています。活動を行う中で、発達に特性のある子ども同士が仲間を作るよい機会です。また、保護者の交流の場でもあります。ご参加いただきますようお願いします。



### 「合理的配慮」とは

さて、かがやきに通うお子さんは学級での「合理的配慮」が必要となるケースがあります。学校も含め地方公共団体は、障害者への合理的配慮の提供について法的義務を負うとされています。学校での合理的配慮は、「障害のある子供が他の子供と平等に教育を受けるために必要かつ適当な変更・調整を行うこと、ただし、体制面・財政面において、均衡を失した又は、過度の負担を課さないもの」と示されています。

また、中教審初中分科会報告に『障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」とよぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところであるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子供に対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。』とあります。

これだけ読むと何をするのか、してもらえるのか分からないことと思います。「合理的配慮」の具体例について、裏面をご一読ください。

## 「ちょっとした気配りで学びやすく」

文科省の調査によると、何らかの発達障害のある子どもは全体の6.7%いるとされています。どの子がとはっきり分からなくても、どの子にもその子の分かりやすい、学びやすい指示が得られるよう配慮することが「合理的配慮」のひとつです。LD等の子どもに「ないと困る」授業支援を徹底していくと、他のどの子にも「あると便利」な授業方策となります。

指示のこぼを①黒板を写す。②ノートを片づける。③漢字ドリルを出す。・・・と分けて順番を示す方法があります。耳だけでなく、目に訴えるために、手順を板書に書く方法もあります。イラストで描いてもいいです。低学年なら、子ども皆が黒板を写すのを待ってから次の指示を出すのも方法の一つです。全体に指示を出してから特定の子に個別に指示を出しに行くという方法もあります。

「合理的配慮」の一つの例を上げました。広くとり上げると3つの観点、11項目となります。

### ①教育内容・方法

学習上又は、生活上の困難さを改善・克服するための配慮

学習内容の変更・調整

情報・コミュニケーション及び教材の配慮

学習機会や体験の確保

心理面・健康面の配慮



### ②支援体制

専門性のある指導体制の整備

幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図る為の配慮

災害時等の支援体制の整備



### ③施設・設備

校内環境のバリアフリー化

発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

「かがやき」での指導は、②支援体制の「専門性のある指導体制の整備」に含まれます。

学習場面では、どのような「合理的配慮」があるのでしょうか。新学習指導要領より「困難に応じた指導内容や指導方法の工夫」の中からいくつか紹介します。

**国語** 文章を目で追いながら音読することが困難な場合には、自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指で押さえながら読むよう促すこと、行間を開けるために拡大コピーしたものを用意すること、語のまとまりや句切れが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなど

**算数** 空間図形の持つ性質を理解することが難しい場合、空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように、立体模型で特徴ある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取り図や展開図と比べて位置関係を把握したりするなど

**体育** 勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合は、活動の見通しがもてなかったり、考えた事や思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることがあることから、活動の見通しを立ててから活動させたり、勝った時や負けた時の表現の仕方を事前に確認したりするなど

一学期をふりかえり二学期の「個別の指導計画(通常級)」を作成する時に参考にしてください。